

水曜通信 8

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2017年
12月

第8回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2017年12月20日（水）18:30-19:00



説教：佐々木 哲夫（本学院院长）
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.ブラームス「一輪のばら咲き出でて」

讃美歌：97番「あさひはのぼりて」

聖 書：創世記 1章1-3節

ヨハネ 1章1-5節

讃美歌：98番「あめにはさかえ」

説 教：「命は人間を照らす光」

祈 禱

頌 栄：541番「ちちみこみたまの」

後 奏：J.ブヴァール「おいで下さい、救い主よ」

後奏の後、19:10から礼拝堂において、東北学院大学宗教部聖歌隊の合唱による讃美があります。

次回第9回水曜礼拝は **1月17日**です。

第8回水曜礼拝報告（説教：松本 宣郎、奏楽：小野 なおみ）

2017年11月15日(水) 18:30-19:00

讃美歌：38番「わがたまのひかり」
聖書：創世記18章20-32節
 マタイによる福音書18章10-14節
讃美歌：294番「みめぐみゆたけき」
説教：「10人しかいなくとも」
頌栄：540番「みめぐみあふるる」



【説教要旨】

アブラハムは神に対して墮落したソドムを滅ぼすのをやめていただくこと必死の間答を行う。「もし50人正しい者がいたら赦していただけますか？」これが6回繰り返されて最後は「たった10人しかいなくとも」まで食ひ下がる。それでも神は「赦す」と言われた。旧約から新約まで、聖書には「少数者」「小さなもの」に対する評価と慈しみが一貫して示される。イエスの「1匹と99匹の羊」も同じである。「羊のために命を捨てる」と言われたイエスは十字架によってそれを実行された。イエスが復活されたことによって、すべての人=小さなもの、が真に評価されることが証されるのである。（松本宣郎）

前奏：J.L.クレープス「我らみなひとりの神を信ず」
後奏：F.メンデルスゾーン「交響曲第2番」より
 第1楽章 マエストロソ・コン・モート



【前奏、後奏曲解説】

前奏はバッハの愛弟子であるクレープスの作品でした。ルターが作った信仰告白のコラールに基づいています。後奏はメンデルスゾーンの交響曲第2番「讃歌」の冒頭部分を選びました。メンデルスゾーンは楽譜の冒頭に「私はすべての芸術、とりわけ音楽が、それを与え、創りだした方（神）のために用いられるのを見たい」というルターの言葉を記しています。

（小野なおみ）

礼拝に43名、その後の19時30分までの中川氏の独唱による讃美に40名の市民が参加されました。

礼拝後、中川郁太郎氏（本学特任准教授）の独唱による讃美

まず、教会が11月上旬に迎える「聖徒の日」を覚えて先唱《この世に証し立てて》と預言者エリヤにまつわる2曲。そして「20世紀の聖徒」の一人、ディートリヒ・ボンヘッファーの詩による《善き力にわれ囲まれ》、最後に、来たるアドヴェントを覚えてカール・P・ダウ Jr.の讃美歌集から《神の時は今満ちて》を讃美しました。（中川郁太郎）



東北学院大学研究ブランディング協賛事業シンポジウム 「宗教改革500年—歴史に学ぶ」報告

日時：2017年10月21日(土) 13:00 -16:50

場所：土樋キャンパス 押川記念ホール

講師：佐藤優（評論家）

佐藤司郎（本学文学部教授）

宗教改革500年を迎えるにあたり、我々は歴史に学び、宗教改革とは何であったのか、改めて問い直し、宗教改革の精神、すなわち「神の言葉に立つ」という精神に、真摯に向き合わなくてはなりません。ルターやカルヴァン、中世チェコのフスのような宗教改革者、あるいは現代のバルトやフロムートカなどの神学者たちは、その時代その場所で、言うべきことを言い、為すべきことを為してきました。彼らの振る舞いや知恵は、現代の国際社会においても学ぶところが多いものです。講演者のお二人はそれぞれ、そのことを明らかにしてくださいました。（阿久戸義愛）



— ステンドグラス修復の進捗状況 —

鉛椀分解作業が続く中、分解が終了したパネルから超音波洗浄機による汚れ落としが始まります。まずガラスに固着したパテをはがし取り、あらかじめ一晩水に浸しておいたガラスピースを洗浄機に入れ、40キロヘルツで15分浸けるとガラスの表面に入り込んでいる汚れが浮いてきます。一旦水洗いをしてからガラス磨き用の布でしっかりと汚れを落とします。そして再組立て用の下図を寸寸法通りに描き、その上で新しい鉛椀で組立てていきます。外側には鉛の芯に真鍮が仕込まれている補強鉛椀を使用、内側は8mm巾のしっかりした鉛椀を使い組み繋いでいきます。ガラスの厚さは様々で、極端に薄い部分や5mm以上も厚いガラスや食パンの耳の様な部分も使われており、当時ガラスを非常に大切に使用していた職人達の思いが伝わってきます。



分解ピース（部分）

洗浄後ピース

（光ステンド工房代表 平山健雄）

— 小樽芸術村ステンドグラス美術館 —

小樽芸術村のステンドグラス美術館は小樽市指定歴史的建造物「旧高橋倉庫」を利用しています。この倉庫は大正12年に小樽軟石を使用して建設され、それ自体が大正・昭和期の街並みを忍ばせる文化財でもあります。建物の外観こそ地味に見えますが、倉庫内には鮮やかに光輝くステンドグラスが数多く展示され、別世界が広がっています。同美術館収蔵の19世紀後半から20世紀初めのイギリスのステンドグラスは約140点に上っています。聖書をモチーフにした作品が多いのですが、戦勝祈念や出征兵への加護を祈るものなど第一次大戦前後の世相を色濃く反映した作品もみられます。（杵淵文夫）

スタンドグラス再設置公開と記念礼拝・講演会のお知らせ

横浜の光スタンド工房での修理がおわり、2月下旬には仙台に運ばれ、再設置されます。その作業を一般に公開します。取り外しのときと同様、平山健雄氏（光スタンド工房代表。右写真）が解説していただきます。そして3月2日（金）に修理完成の記念礼拝と記念講演会を行います。そのあとオルガンの今井奈緒子氏（本学教授）が音楽で讃美をします。すべてラーハウザー礼拝堂でおこないます。詳しくは改めてご案内します。



2018年度研究ブランディング事業の概略



ブランディング事業も3年目に入ります。HBB工房のスタンドグラスの調査を継続するとともに、ジョン・ラファージ・シンポジウムは第2回目として、Beatrice La Farge氏（フランクフルト大学）、Henry Adams氏（CWR大学）をお招きして、ラファージのスタンドグラスとキリスト教に焦点をあてます。また新たに学院の3校祖のホーイ先生とシュネーダー先生の母校であるランカスター神学校（左写真）での資料調査、そして交流も始めます。人文学部門も地域研究部門も重点的に研究をおこなっていきます。

* 神学部門

「十字架の神学」をテーマに青野太潮氏（西南学院大学）、Petra von Gemünden氏（アウグスブルグ大学）、そしてドイツ改革派の日本伝道をテーマにランカスター神学校のCarol E. Lytch校長をお招きして、それぞれシンポジウムを開催します。

* 人文学部門

「地域主義と帝国理念」を中心テーマとする研究事業を推進し、その成果を随時公表します。

* 地域研究部門

1929年の東北学院創立40周年を記念して撮影された、貴重な35ミリフィルムのスキャニング（映像修正）事業を開始します。全9巻分のスキャニングを進め、完成した暁にはメディアテークなどを会場として、その成果を公表します。ご期待ください。

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第8号

2017年12月12日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6405（研究機関事務課）

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/